プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要

（2019年9月）

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 向山　恭一 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 多文化共生をテーマとした課題研究を行う。対象は人種・エスニシティにとどまらず、ジェンダーやセクシュアリティ、宗教や言語、さらには階級にいたるまでの、さまざまな差別現象（ヘイトスピーチ、セクシュアル・ハラスメント、同性愛嫌悪、歴史修正主義、文化帝国主義など）をとりあげ、社会に分断をもたらすものはなにか、ひとびとの分断を対話へと変えるにはなにが必要なのかをグローバルな観点から考察する。 |
| キーワード：マイノリティ／マジョリティ、定住者／移住者、社会的包摂／社会的排除、シティズンシップ、アイデンティティ、グローバリゼーションほか。 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 前期では広い意味での多文化共生にかかわる基本文献（英語文献を含む）を講読し、プロジェクトゼミ全体での共通了解的な知識の習得をめざす。後期では各自の問題関心に応じた多文化共生の課題を設定し、それぞれの課題についての研究成果をたがいに報告する。また、国内外での社会認識を深めるために、地域・国際交流にかかわる事業への積極的な参加も望まれる。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | プロジェクトゼミでの研究成果をさらに発展させ、課題解決まで視野に入れた論文（2万字程度）を作成する。 |
| 配属の要件・基準 | 上記の内容に関心のあること。 |
| 備考 | ゼミについての質問等は、昼休みの時間帯に教育学部D棟8階の政治学研究室で受け付ける。不在の場合は日を替えるか、メールで問い合わせること。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 内 田 健 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 「現代の社会」について精密に考え、的確に語り・書くのに有用な技法 (tricks of the trade) を自分のものにすべく勉強を積んでいく。  言語と非言語とを問わず、人間の対象認識はシンボルの仲立ちを欠いては果たせない。K. バークは人間を「シンボルを使用する動物 (symbol-using animal) 」と定義した。この「使用」には、「善用」と「悪用」、両様の含意がある。人間はシンボルを用いて他者を深く理解することもできるし、他者を手酷く欺くこともできる。P. ブルデューが「シンボルの力 (pouvoir symbolique) 」というとき、現行の「社会」のありかた (*status quo*) が正当であることを問答無用とばかりに当然視させる、言語的・非言語的シンボルの作用を指している。シンボルの挙動の追跡は、「人間の社会」の探究と同道する作業である。  このゼミでは、R. ライシュのいう「シンボル分析 (symbolic analysis) 」、すなわち、文（書かれた／話された言葉）や数値や映像や画像や音声といった各種のデータをつぶさに観察・吟味・解読し、「現代の社会」が抱えている課題への対処を阻害しているとおぼしい要因を絞り込んでいく知的操作に、各自が習熟することを目指す。 |
| キーワード：メディアリテラシー データリテラシー クリシン (critical thinking) レトリック  社会保障（再分配 格差是正 平等 公平） 福祉＝幸福 (welfare) 人口問題 現代社会 社会学 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の活動内容と運営方針 | 3年1–2Tは議論の組み立てかたや資料・データの取り扱いかたの基本を、文献講読等をとおして学ぶ。並行して、この時点での卒業研究構想を順次述べてもらう。  3Tからは卒業研究の構想をじっくり磨きあげてゆく。各自が関心をもっているテーマにかんするリサーチの進捗状況を順番に報告し、互いの報告をめぐって自由に意見交換をおこなうのが、ゼミの基本形である。  リサーチの方法は、文献研究、各種統計のサーヴェイ、質問紙調査、インタビュー、参与観察等々から、目的に応じて各自が自由に選び、組み合わせてよい。 |
| ソリューションラボ（4年次）の概要 | 3年3–4Tの作業を継続し、研究を36,000–40,000字の「卒業論文」に仕上げていく。  4年1–2Tをとおして論文のアウトラインをあらかた固め、データ・資料・文献の収集は3Tでおおよそ目処をつける。  4Tではもっぱら論文草稿の作成と書き直しを積み重ねていく。 |
| 配属の要件・基準 | 常識と熱意のある学生をもとめる。卒業研究をいい加減に片づけようという姿勢の学生は、当然ながら受け入れられない。本を読むのが嫌いな人、面倒なことを考えるのが嫌いな人、「エラい人やの言うことは疑わないのが吉」という信条の人も向かないと思う。ともかく、大学生活の総仕上げとして立派な卒業論文を書き上げたい、という強い熱意を抱いている学生でないと、ゼミの活動についてこられないだろう。  私は、討論の場で遠慮なく異論をぶつけあうことにこそゼミの醍醐味があると考えているので、議論の活性化に寄与する意欲のある学生を歓迎する。 |
| 備考 | 面談は教育学部D棟8階「社会学研究室 (1)」でおこないます（個別でも複数でも可）。  希望する人は日時調整のため事前にメールしてください (uchida@ed.niigata-u.ac.jp)。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 熊野 英和 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 情報通信関連技術が果たすべき役割は、今後高まる一方である。IoT・ICT、AIや自動運転、ロボット技術等々の進展により関連する分野・領域の裾野は益々広がっており、社会は今まさに大変革期にある。今新しい技術もすぐに陳腐化してしまう一方で、自然科学や科学技術の根底を支える数学法則や物理原理は不変であり、どんな技術もこの「不変性」あるいは「普遍性」に立脚している。  当プロジェクトゼミでは、利休の「守破離」の精神に則り、科学技術を理解・応用し、更に自ら新しい何かを創造する上で、社会や時代の流行り廃りに左右されず、どんな場合にも必ず必要となる基幹的スキルの修得を重視する。主としてHands-on形式にて、データ分析、IoTガジェットの制作、プログラミング等を実施し、さらに必要に応じてそれらを修得する上で必要となる数学（主に代数学、解析学、統計学）、情報学、回路、ネットワーク、信号処理等について学ぶ。 |
| **Keywords**: ICT, IoT, AI, Engineering Science, Computer Science, Applied Mathematics, Electronics, (Quantum) Physics, Electronics, Cognitive Science, Machine Learning, RPA … |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 具体的な活動内容および実施形態については、配属学生と相談の上決定する。  基本的には、前期は配属生全員に対して共通のテーマを課し、協力しながらデータ分析やモノ作り（ハード＆ソフト）の基礎を修得する。後期には、ソリューションラボを視野に入れた設定とし、学生個々がそれぞれの卒研に向けて、必要となる基礎的な知識やスキルの修得を目指す。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 広く自然科学一般に関する理工学的領域について、（熊野の専門は本来量子物性物理 / 量子情報科学であるが、こんなマニアックなテーマに結びつける意図は毛頭ないのでご安心ください。勿論そこに興味がある奇特な学生がいればリンク可）基本的には一人一人がテーマを設定して活動を行うこととする。複数での協働的活動も必要に応じて可とする。  科学技術は大きく真理探究の面と、社会実装による応用の面があるが、当ラボは基本的には後者に軸足を置く。主に情報通信関連技術を諸課題解決のためのツールとして用いることで、様々な分野との協働が求められる場面が多くなるものと予想される。大学院進学を希望する学生については、相談の上大学院試験の準備を十分考慮したテーマ設定としたい。 |
| 配属に際し、備えていることが望ましい資質等 | 自然科学一般（特に数学、物理、電気/電子、情報関連分野）のしくみ理解と、それに基づく社会課題の探究および解決に対して十分な興味関心と意欲を持っていること。謙虚に、また楽しみながら知の境界を拡げる努力を継続できる知的体力を持ち併せていること。英語に苦手意識のないことが望ましい。 |
| 備考 | このゼミに興味・関心のある学生は、気軽にアポを取って相談に来て下さい。また、課題の探究・解決に向けて、科学技術のツールとしての利用に興味がある学生は、所属ゼミ・ラボに関わらず遠慮なく声を掛けてください。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 佐藤　靖 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 社会課題の解決に取り組むときには、しばしば公共の視点が重要になる。課題解決の方策が社会全体のルールや理念に適合している必要があるからである。その意味で、公共政策は課題解決にあたって目を向けておくべきポイントの一つである。  課題解決に際してもう一つ視野に入れておくべきものとして、科学技術の進展がある。農業、医療、環境、インフラ整備など、さまざまな分野の課題に最近の科学技術の動きが関係するからである。社会課題を考える際には一定程度の科学技術を理解しなければならない時代になっている。  本プロジェクトゼミでは、現代社会の課題に公共政策と科学技術がどう関わっているかを学ぶ。それを通じて、社会的な観点と科学技術の観点の双方を踏まえて課題解決にアプローチする思考様式を身につける。 |
| キーワード： 公共政策、科学技術（情報通信技術（ICT）、バイオテクノロジー、環境・エネルギー関連技術など）と社会 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | プロジェクトゼミⅠでは、さまざまな分野の政策立案の事例を演習形式で学ぶ。政府や自治体がいまどのように各分野の課題に取り組もうとしているのか、そこで科学技術に期待されている役割は何かを議論する。  プロジェクトゼミⅡでは、学生が取り組もうとしている課題の公共政策的な側面と科学技術的な側面について検討し、それをゼミ内で共有して議論する。このような活動を通し、さまざまな分野における社会と科学技術との関わり合いに関する理解を深めていく。  ゼミでは、学生の自主性を重視する。広い視野を保ちつつ、課題へのアプローチを柔軟に模索してほしい。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 学生はそれぞれ自ら設定した課題への取り組みを進める。まず、取り組もうとする課題に関わる科学技術や社会の動きについて、現状と経緯を押さえる。そして、定性的手法と定量的手法を場面によって使い分けつつ、課題の分析を進め、最終的には課題への取り組みの結果を論文の形でまとめる。  なお、課題解決に向けた提案は科学技術に深く関わるものでなくても良い。取り組む課題によって、科学技術の関わり合いの度合いは大きく異なるからである。 |
| 配属の要件・基準 | 公共政策に対する関心、または科学技術の社会的次元に対する関心、ないしその両方に対する関心をもつ学生が望ましい。 |
| 備考 | オフィスアワー：木曜２限、木曜昼休み、金曜４限（第3･4ターム）  上記の時間帯はアポイント不要で随時研究室（総合教育研究棟A-611）を訪問してください。これ以外の時間帯の場合は、事前にメール等で連絡をしてください。（sato@create.niigata-u.ac.jp） |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 渡邊　洋子 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 人が多様な日常的・非日常的経験の中で、また他者との関わりや自然・モノとの出会いを通して、ノンフォーマルやインフォーマルに学ぶ行為や活動、あるいは学習的側面に注目し、そのメカニズムや諸要因、実践的課題、可能性などを解明できる力の獲得を目指す。特に、個人や集団における成長・変容・葛藤・省察などのプロセスや諸相、そこへの多元的な支援や働きかけ、ネットワーク／環境／空間形成、新たな価値の創出への契機などに、理論的・実践的にアプローチする。  具体的には、一人一人の問題意識を言語化し、研究課題として立ち上げつつ、成人（生涯）教育学、学習科学、歴史学、社会学、文化人類学、質的研究などの知見や方法論をツールとして、研究の方向性を明確化する作業に共同で取り組む。 |
| キーワード：生涯発達／学習、成人学習／教育、社会教育、専門職教育、人材／担い手育成、InterProfessional Education、ジェンダー、家族、地域再生、文化継承 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | Ⅰでは、汎用性の高い成人学習／教育理論の文献講読を通して、各自の研究を進める上で有効な理論的ツールを身につけ、論理的思考を磨くことに重点を置く。各自の関心や問題意識のフリーディスカッションを踏まえ、推奨文献リストと教員のガイダンスから共通文献を選定し、分担報告と議論を行う。そのプロセスで、各自の研究課題を絞り込む。Ⅱでは、各自が研究課題に関わり選定した文献・資料を用いて報告し、多面的討論とゼミ論の執筆を通して、卒業研究への道筋を探究する。  上記と合わせ、必要かつ重要と思われる範囲で共同活動を行う。ゼミとしてのフィールド調査（他学部・学外アカデミック機関・研究所・自治体・企業・NPO・他の地域活動など、2019年度はゼミ研修旅行としても実施）、関係者へのヒアリング調査やインタビュー、DVD視聴を踏まえた議論、キャリアイベント等を含む。  領域にかかわらず、各学生の問題意識と研究課題に教員が丁寧に向き合うのみならず、学生同士が互いの研究・実践に関心を抱き、「自分ならどう進めるか」の観点から自他の研究・実践を磨き合える、「学習コミュニティ」を目指す。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 4年間の創生学部での学修成果を、卒業論文ないしそれに相当する実践的成果物（要相談）として取りまとめ、公表することを到達点とする。研究のテーマと対象、依拠する諸学問領域等に応じて、卒業研究デザインの共同コーディネートと伴走的サポートを行う。必要に応じて、他教員や外部助言者との連携協力もはかる。 |
| 配属の要件・基準 | 実績や自信や明確な問題意識がなくても、やる気と何らかのこだわりがある学生、グループワークは苦手でも、他者と学び合うことに意義を感じられる学生、専門外のテーマや領域にも、わからないながらも関心のもてる学生、であれば可。 |
| 備考 | 留学希望者および大学院進学希望者については、受け入れとサポートは可。  配属希望の有無にかかわらず、希望者には「研究お悩み相談」を行う。  研究室は人社棟2階F272であるが、研究面談は当面、非対面で実施（Zoom）。  アポイントや問い合わせは、wyoko@create.niigata-u.ac まで。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 堀籠　崇 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 【テーマ】価値創造活動としての経営を実践する  経営とは，様々な分野の知を結集し価値へと転換して社会へと提供する営みです。本ゼミではそうした価値創造活動としての経営の実践により，体得することを目指します。実際にフィールドに出て課題を探索するとともに，様々な学問領域をベースに，それを社会にとって意味のある価値に転換するにはどうしたら良いかについて，ビジネスプランの作成などを通じて学びます。 |
| キーワード：医療，社会システム，組織マネジメント，アントレプレナーシップ，地域経営，まちおこし，グローカル，ビジネスプラン，フィールドワーク，遊び心 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 【取り組む課題】   1. 個人課題：経営学における基礎的な研究スキルの修得（専門書の読み方，研究テーマの設定，文献サーベイ，論点のまとめ方，ディスカッション，プレゼンテーションスキルなど） 2. 協働課題：外部のまちづくりプロジェクトやビジネスプランコンペ等への挑戦   【運営方針】   1. ゼミは基本的にアウトプットの場とします（インプットは各自で）。 2. 半期で2回「無断」欠席した場合は自動で履修放棄とみなします。 3. 最低1度はフィールドワークに出てもらいます（ゼミ旅行も可）。 4. 他のゼミとの積極的なコラボレーションを推奨します。 5. 親睦会やゼミ旅行等の各種イベント企画や年間の予算・スケジュールなど，学修以外の部分については全て自分たちでマネジメントしてもらいます。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 【テーマ】価値創造活動としての経営と社会（ローカル・グローバル）を考える  　プロジェクトゼミ（3年次）を実践とするならば，ソリューションラボ（4年次）は理論的整理・体系化が中心となります。履修者それぞれが設定した課題について，各種資料・データや文献を基に分析・検討するとともに，他のゼミメンバーとの議論を通じたブラッシュアップで論文の完成を目指します。なお運営方針については，プロジェクトゼミ（3年次）と基本的には同様です。 |
| 配属の要件・基準 | でかい口をたたくだけで行動が伴わないのは恥ずかしいものです。文献を読み込んで知識を身につけることは大変重要ですが，実際に現場に出て五感を通じて「体得」することもまた重要だと思っています。そうしたことを厭わない学生，他者と協働することの意味を理解できる学生，どんなことでも楽しむ遊び心を持った学生を歓迎します。  なお，希望者多数の場合には，希望理由，面談内容，履修状況（取得単位数，履修科目）から総合的に判断して選抜します。  【参考文献】   * 山口周（2019）『ニュータイプの時代』ダイヤモンド社 |
| 備考 | 質問・面談希望者は事前にメールでアポを取るようにしてください。  メールアドレス：horigome@create.niigata-u.ac.jp |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 澤邉　潤 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 本ゼミ・ラボでは，フィールド「で」調査研究するのではなく，フィールド「と共に」探究・調査することを重要視することに特徴がある。  4年次に自らが設定した課題を改善するための方策を実践的に検討するために，3年次では社会と密接に関わる課題を学生が発見し，研究計画を設計する。対象領域は「人材育成に関わる諸課題」である（関連するテーマであれば広範に扱う）。具体的なフィールド（地域，学校，自治体，産業）に自らが関わりながら課題発見，改善のプロセスを通じて，課題解決の一連のサイクルと困難を体験的かつ体系的に学ぶで，「企画力」「実行力」「調整能力」を身につけることをねらう。 |
| キーワード：アクションリサーチ，ファシリテーション，フィールドワーク，連携・協働，Civic Engagement |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 社会の実情を知り，課題設定に関わる文献調査，調査研究のための方法論について学修し，研究計画書（学修成果物）を作成する。  〔1学期〕プロジェクトゼミⅠ  ・関心分野の文献理解：文献輪読（演習）  ・研究デザインのための知識獲得①：方法論の学習（講義）  ・課題発見・設定スキル獲得；プロジェクト企画（フィールドワーク等）（演習）  〔2学期〕プロジェクトゼミⅡ  ・関心分野の文献理解：テーマ別文献輪読（演習）  ・研究デザインのための知識獲得②：方法論の学習（講義）  ・研究デザイン：先行研究レビュー（各自），研究計画骨子作成（演習）  ・課題発見・設定スキル検証；プロジェクト実践（フィールドワーク等）（実践） |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 3年次の研究計画書のブラッシュアップを進め，探求すべきテーマに向けてデータを収集・分析して，最終的な提案（論文）をまとめる。プロジェクトゼミでの研究計画をベースに個人の探究テーマを尊重し，ソリューションラボを実施する。 |
| 配属の要件・基準 | 面談，履修状況，学生の関心（理由書）を総合的に勘案して配属を検討する。下記について共感できる学生を歓迎する。   1. 「人と関わること」や「人を育てること」に興味・関心がある人 2. 失敗を恐れずにチャレンジできる人（チャレンジしようとする人） 3. 企画力・調整力・実行力を高めたいと思っている人 4. 他学生のプロジェクトにも積極的に関わっていける（協力できる）人 |
| 備考 | オフィスアワー(下記時間帯)で質問等に対応する（下記時間以外は応相談）。  メールアドレス；sawabe@ge.niigata-u.ac.jp　場所：人社棟C棟357（研究室）  2学期：木曜　昼休み（12：00～12：40），水曜5限（16：25～17：55）  ※不在にする場合もあるため，事前にメールでの日程調整を推奨する。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 小路　晋作 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 【テーマ】農林業など人間活動と生物環境との関わりをテーマとする．農林業や地域課題等の社会背景も含めた幅広い理解をめざす．  【手法】一次情報に基づく（＝自分でデータを取る）研究手法を主とする．課題設定，計画策定，データ収集，分析などの過程を通じて，自らデータをとり，データに基づいて物事を判断する方法を身につける．課題として生態学の野外研究を想定するが，あくまで学生のアイデアを尊重して決める．できるかぎり学外ステークホルダーとの連携を取り入れ，多様な人とのコミュニケーションを図りながら研究を行う．  【指導】教員の専門分野については学部ウェブサイト（教員紹介）を参照のこと． |
| キーワード：生物多様性，生態系サービス，野生動物と人間との軋轢，農林業，保全生態学，都市生態学，市民科学，里山，環境保全型農業，昆虫 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | ・ソリューションラボでの個別研究に必要な準備とトレーニングを行う．  ・テーマの内容・分野によらず独学を旨とする．  ・ゼミでは，各回の担当学生が個別テーマに関連するトピックについて話題提供し，論点を提示する．文献紹介だけでなくディスカッションを重視する．  ・上記に加えて，フィールドの探索や研究計画作りを進める．  ・ゼミ単位の活動として以下を計画している．  (1) 様々な社会課題の取り組み事例を取材する「先進事例調査実習」  (2) 五十嵐キャンパス内生物相の市民参加型調査 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | ・プロジェクトゼミで立案した計画に従い，個別のテーマについて研究を行う．  ・定期的にゼミを実施し，課題理解と研究プロジェクトの進捗報告等を行う． |
| 配属の要件・基準 | ・熱意をもって取り組める対象が明確であり，それに対する自らの立ち位置についても自分の考えを持っていること． |
| 備考 | ・配属希望者および検討中の方は面談してください．アポをとること．  ・他学部研究室との共同研究を考える人は，小路と事前に面談し，実現可能性について理解しておくこと．（※できる限り中野 優先生にも同席していただけるよう調整します） |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 半藤　逸樹 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 当MATRIX（Mathematical Arts and Transdisciplinary Research Initiative for Creative Studies）ゼミでは，担当教員が従事している研究プロジェクトやその他新規プロジェクトと学生の興味をマッチングさせて学修を進めます．SNS系アプリを用いた環境政策や価値観（宗教観・環境観など）の評価，仮想通貨を用いた社会実験，「（経済活動を含む）人間と自然の共生」や「生命・環境の共進化」に関するシミュレーションや論考，観葉植物・レイアウト水槽によるグリーンアメニティやグリーンAI（AIで環境問題解決に貢献）の研究，地球規模巨大災害リスク（地震・津波，化学汚染，気候変動，AIなど）の解析とリスク・コミュニケーション，未来社会のデザインなど，「猫🐈」，「魚🐟」，「環境」，「地球」，「宇宙」，「経済」，「数理」，「人権」，「人類」，「未来」，「（オンライン）ゲーム」，「乃木坂」のようなキーワードが含まれるテーマを設定する限り，担当教員が全力でサポートします． |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 学修テーマに取り組むのは学生自身です．担当教員が従事しているプロジェクトに関するテーマで活動をする場合は謝金を払います（学びながら稼げる仕組みの一つ）．学生の能力やエフォートに応じて，ゼミ室に専用の机を与え，研究に関する調査費用などを支援します．起業志向の学生は，起業の準備としてプロジェクトゼミを活用すれば良いでしょう（クラウドファンディングも試行してください）．学外セミナーへの参加費（旅費を含む）の支援も行い，プロジェクトゼミを通じて，卒業後の進路の選択肢を広げつつ，「就活しなくても社会人になれる」や「研究環境の整った大学院へ進学できる」状況をつくるようにします．「課題解決（好きなこと）で生きてゆく」を実践しましょう．プロジェクトゼミで十分な成果を挙げ，それを材料に進路を決めてソリューションラボで（大学を離れて6カ月程度の）旅に出るのが理想的です．MATRIXゼミには他学部の学生も参加する可能性があります（他学部とのコラボレーションを推進します）． |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | プロジェクトゼミで設定した課題について，学生が研究を進めます．研究論文を書く以外にも，学外でのプレゼンの機会もあります．課題解決に向けては，多種多様なステークホルダーとの協働が重要です．ネットワーキングを積極的に行い，「知の共創」から解決策を見出し，大学の教育研究資源を完全に使いこなして説得力のあるプレゼンや論文執筆ができる状態にしましょう．研究を進める過程で必要になるワークショップやイベントの企画立案も学生が行うことになります． |
| 配属の要件・基準 | 領域学修科目パッケージやDS/P.A.C.E.の選択や成績は不問です．学生・教員からの評価を気にせず，個人の興味・関心を徹底的に探究することが重要です． |
| 備考 | 「ちょっと何言ってるかわからない（サンド富澤）」と思ったら，気軽に面談に来てください．複数の教員と面談を繰り返すことが，「脱自分探し」につながることもあります．語学目的以外の海外留学は積極的に支援します． |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 田中　一裕 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 【テーマ】学びの探究  私たちが学びに出会う場面は学校だけに限らず，家庭・地域社会・働く場など多面的に捉えることできる．現在の技術革新とそれにともなう社会の急激な変化は，学びの活動そのものに大きな影響を与えている．研究主体は自分自身を含む特定の年齢であっても，不特定な人を対象としてもよい．また学ぶ場として，学校・家庭・地域社会・働く場など幅広く設定することが可能である．現在の課題を取りあげることも，新しい学びの在り方をテーマとすることも可能である．  学びを取り巻く教育産業（塾・予備校・教育関連企業），社会教育（研修センター・カルチャーセンター），教育行政（教育委員会），教育研究所，NPOなどをフィールドとする．  【手法】フィールドワーク，データ分析，文献調査  自己の学びに対する興味や関心がある分野に対して分析をおこない，関連する多様なフィールドにおいて多くの人と関わりあい，課題の発見や現状の分析，課題解決へのプロセスから解決策の提案をおこなう． |
| キーワード：学び，大学生自身のキャリア形成，教育関連（学校，教育行政，教育産業，教育法関連），意思決定理論，VR・AR教育，情報・金融・主権者・環境・異文化理解・生命倫理教育 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 【活動内容】グループ課題探究と個人課題探究   1. グループ課題として，特定のフィールドにおける課題について取り組む．   (2019年度：阿賀町子ども未来フォーラム，新潟県立正徳館高校キャリア教育，国立妙高青少年自然の家プロジェクトアドベンチャープログラムなど)   1. 個人課題として，個人が設定した課題に対して取り組む．   (2019年度：特別支援教育関連テーマ，日本・韓国関連テーマ，日本・ベトナム関連テーマ，電子マネー関連テーマ，アイドル・コミュニティ関連テーマ）  【運営方針】プロジェクトゼミⅠ，Ⅱ   1. プロジェクトゼミⅠでは，グループ課題を中心として，課題の発見，フィールドの決定，フィールドでの調査，分析などをグループでおこなう．   プロジェクトゼミⅡでは，個人課題について毎回，課題分析に対する進捗状況の報告，検討をおこない，最終的には成果報告書をまとめる． |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 【概要】個人課題の探究と完成  プロジェクトゼミにおいて積み上げた文献やデータ，分析や課題などをもとに，論理的な整理と理論的な体系化をおこなう．また課題解決に向けた具体的な対策を，各フィールドの職員などの評価を受け，ブラッシュアップをおこなう．最終的には成果を卒業論文の形にまとめる，または公開フォーラムなどの実施で研究成果を発表する． |
| 配属の要件・基準 | 学びに関する興味・関心を強く持つ人．  多様な教育関連のフィールドでの活動を目指す人． |
| 備考 | 面談を希望する学生は　[kazuhiro@create.niigata-u.ac.jp](mailto:kazuhiro@create.niigata-u.ac.jp)　にメールをください．  　日時の調整をおこないます．場所は人社棟2階F288研究室でおこないます． |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 並川　努 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 学術論文の講読を通して，さまざまなテーマについて知識を得るとともに，研究の方法論や考え方について理解を深める。自分の興味関心だけではなく，ゼミの他のメンバーのテーマや，考え方についても関心を持ち，理解することを目指す。  また，実際に各自で研究を行い，論文作成までのプロセスを一通り経験する。 |
| キーワード：調査，面接，観察，フィールドワーク |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 【プロジェクトゼミⅠ】学術論文の講読（＋調査実習）  ・各自の興味・関心・専門領域に合わせて文献を選び，講読する。  ・授業では，担当者が内容を簡潔にまとめたものを発表した後，それについて 全体で議論を行う。  ・各自が領域学修の成果も活かして，積極的に発言することが求められる。  ・2020年度は，講読と平行して，質問紙を用いた調査研究の実習も行う。  【プロジェクトゼミⅡ】各自の研究についての発表・議論  ・授業では，毎回２~３名が成果や進捗状況を報告し，全体で議論を行う。  ・最終的に一人ひとりが何らかの研究を行い，プレ卒論のような形でその成果を論文の形にまとめる。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 自身で設定したテーマに関する実証的な研究を進め，卒業論文を作成する。  ・プロジェクトゼミで行った研究を発展させる形が基本だが，テーマ変更も可。  ・授業では，プロジェクトゼミⅡと同様に毎回発表・議論を行う。  特に，自分とは異なる領域を学んでいる人にも理解可能なように研究の内容や意義を説明し，互いに活発な議論を行うことが求められる。 |
| 配属の要件・基準 | ・配属に特別な要件はない。  ただし，希望者が定員を超過した場合は，成績（GPA，取得単位数，履修科目），面談内容，希望理由などをもとに，選抜を行うことがある。 |
| 備考 | ・狭義の心理学的な研究に限らず，人を対象に実証的なアプローチで行われる研究であれば，各自が選ぶ研究テーマに制約は設けない。（実際今年度のゼミでは，音楽，メディア，SNS，宗教，観光，幸福感，いじめ，犯罪，VR，環境，林業など多様なキーワードが挙げられている。）  ・面談を希望する場合は，事前にメールでアポイントをとること。  第3タームは，月～水曜の昼休み（12:00～12:45），木曜4限などが， 都合がつきやすいが，その他の時間帯も応相談。  メールアドレス：namikawa@ge.niigata-u.ac.jp  研究室：総合教育研究棟F棟5階　F577（エレベーターの正面） |